



新成人
みんな前向き

1 12月定例会・第2回臨時会審議結果	②～③
そこが知りたいQ&A	④～⑤
一般質問(4人)ここが聞きたい	⑥～⑨
町民の声	⑩

令和3年 第4回(12月)定例会

令和3年第4回定例会は、12月10日に開会し、13日まで4日間の審議を行った。

議案審議においては、固定資産評価審査委員会委員の選任同意、国民健康保険条例の一部改正、重度心身障害者医療費に関する条例の一部改正、工事請負契約の変更、令和3年度各会計補正予算など町長提出の7案件を慎重に審議し、すべて原案のとおり同意・可決した。

一般質問には4議員が公共交通対策、避難所対策、生活対策、子育て支援、農業の振興、美里町との包括連携協定、令和4年度予算編成の方針等について活発な議論を展開した。

審議結果一覧

区分	議案名	審議結果
同意第4号	甲佐町固定資産評価審査委員会委員の選任に付き同意を求めることについて	同意
議案第59号	甲佐町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第60号	甲佐町重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第61号	工事請負契約の変更について	可決
議案第62号	令和3年度甲佐町一般会計補正予算(第7号)	可決
議案第63号	令和3年度甲佐町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	可決
議案第64号	令和3年度甲佐町水道事業会計補正予算(第1号)	可決

審議した主な議案等の内容は次のとおり。

人事関係

固定資産評価審査委員会委員に

さいかい 国嗣氏



現固定資産評価審査委員会委員の星本敏也氏(甲佐地区)が令和3年12月25日で任期満了となることから、境国嗣氏(宮内地区)を選任することに同意した。

条例関係

国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

出産育児一時金の支給額を4万4千円から4万8千円に改めたものの。

重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
助成給付の適用時期を明確化したもの。

契約関係

工事請負契約の変更について

熊本甲佐総合運動公園野球エリア整備工事の請負契約額1億7512万円を1億8447万3千45円に増額するもの。

予算関係

令和3年度甲佐町一般会計補正予算(第7号)
今回の補正予算により5445万7千円を

増額し、総額82億6583万7千円とするもの。
 今回の主な補正予算は、災害復旧費4257万8千円、介護給付・訓練等給付費2917万8千円等を増額し、道路改良事業等の国庫補助金等の確定に伴う減額。

令和3年度甲佐町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)
 今回の補正予算により1040万4千円を増額し、総額15億953万7千円とするもの。
 今回の主な補正予算は、一般被保険者高額療養費1100万円等を増額。

令和3年度甲佐町水道事業会計補正予算(第1号)
 令和4年度から発生する経費の債務負担行為。

令和3年 第2回臨時会

令和3年第2回臨時会は、11月25日に開会し、専決処分の報告及び承認、財産の取得、一般会計補正予算について審議を行い、すべて原案のとおり承認・可決した。

審議結果一覧

区分	議案名	審議結果
承認第8号	専決処分の報告及び承認について	承認
承認第9号	専決処分の報告及び承認について	承認
議案第57号	財産の取得について	可決
議案第58号	令和3年度甲佐町一般会計補正予算(第6号)	可決

報告及び承認関係

令和3年度甲佐町一般会計補正予算(第4号)
 町長の専決により災害復旧費2880万円を増額し、総額76億2926万6千円としたもの。

令和3年度甲佐町一般会計補正予算(第5号)

町長の専決により新型コロナウイルススワクチン接種事業費917万7千円を増額し、総額76億384万3千円としたもの。



財産の取得関係

小型ポンプ積載車の購入について

更新に伴う小型ポンプ積載車2台(下横田消防団、浅井消防団)

予算関係

を1359万9520円で取得するもの。

令和3年度甲佐町一般会計補正予算(第6号)

今回の補正予算により5億7293万7千円を増額し、総額82億1138万円とするもの。
 今回の主な補正予算は、寄付金(ふるさと納税)の増額に伴い、ふるさと甲佐応援寄付金積立金に2億9000万円、ふるさと甲佐応援寄付金返礼品等の寄付に伴う経費に2億2624万9千円の増額を行ったもの。

そこが 知りたい

12月定例会
質疑から

Q & A

子ども医療費無償化の対象年齢 18歳までの引き上げを検討

Q 町長の4期目マニフェストで、「新たな子育て支援策」を掲げられているが、どのような支援策を検討されているのか。

A 本町においては、子育て支援政策は非常に重要視して、これまでも取り組んできています。保育料の軽減や中学3年生までの医療費の無償化、子育て世帯を対象とした定住促進助成金の給付及び子育て支援住宅の整備など、これまで様々な子育て支援施策の充実を図ってきていると考える。

4期目の政策マニフェストの中で、さらなる支援策の検討を行うことを掲げていた。まずは、子育て世帯の新築住宅に係る固定資産税の減免について検討を進めてきたが、対象者が住宅を建設される世帯に限定されることや、定住促進助成金と二重支援になってしまうことから、更なる研究を進めているところである。

そのような中で、上益城郡内の町長会の会議において、医療費の無償化については、郡内足並みをそろえて対象年齢を18歳まで引き上げようというような考えがでてきている。

町でも、独自に様々な子育て政策につい

て検討してきたが、郡町長会の考え方を重視しながら、4期目の政策目標として掲げてきた子育て支援の策として、これに取り組んでいくならばと考えている。

そうなれば、18歳までの対象年齢の引き上げについては、それに関する条例や予算案について今後の議会にご提案することとなるので、その際は活発なご審議をいただきたい。



子育て支援住宅

子育て世帯の定住促進には教育 環境の充実が必要

Q 子育て世帯の転入を促進させるひとつの要素として、教育環境の充実が考えられる。教育委員会ではどのような考えを持っているのか。

A 教育委員会としては、まず第一に町内で充実した教育が行われている環境整備が重要と考える。安心・安全な学校に、子供たちを安心して通わせ、任せられる。

そこで十分な教育が受けられて、学力の向上が図られるということは、移住・定住の大きな要素になると考える。子育て世帯の方々に、甲佐町の教育は充実しているので、そこに住みたい、この学校に通わせたいと思っただけのような教育を行っていききたいと常々考えている。

経済的な援助制度についても充実を図りつつ、学校環境、教育環境の充実に教育委員会としては、今後とも全力を尽くしていきたいと考えている。



建設中のソフトボール場・完成した野球場

熊本甲佐総合運動公園の野球場、ソフトボール場の供用開始時期

Q 熊本甲佐総合運動公園の野球場とソフトボール場については今年度完成予定となっているが、供用開始予定時期は。また、供用開始後は有効活用を図って賑わいを創出していきたいと考えているが、有効活用案についての計画は。

A ソフトボール場については、来年度当初からの供用開始を予定している。野球場については、天然芝の養生期間もあり、6月以降の供用開始を予定している。



建設中の管理棟・倉庫

有効活用の計画として、野球場及びソフトボール場については、各連盟や協会などと連携を図り、各種大会を積極的に誘致していきたいと考えている。

また、関係団体の練習の場としての利用や運動を通じた体力づくり、健康づくり、ジュニアの育成という観点でのスポーツ教室、また中学校部活動、社会体育移行団体等の練習の場として有効活用が図られればと考えている。

第2回
臨時会質疑から

ふるさと納税

Q ふるさと納税については、今年度になって受入れ額が著しく増加している。執行部の頑張りは称賛に値するが、現在の状況とその要因は。

A ふるさと納税の今年度の受入れ額として、4億円を見込んでいるところである。

ふるさと納税の受入れ額が増加した要因のひとつとして、返礼品の品数が充実してきたことが考えられる。

その中で、特に今年になってから米が相当出でており、その部分で増加していることも考えられる。

また、委託業者と町とで連携協定を締結しており、企業努力をさせていただいている部分もある。

ポータルサイトも3件追加をして、現在7件のポータルサイトで運営しており、その部分も伸びた要因と考えている。

甲佐町ふるさと納税ポータルサイト内週間ランキング



熊本県甲佐町

【R4年1月以降お届け月指定可能】【令和3年度産 新米】熊本県産 15kg 甲佐米 (5kg×3袋) 10,000円



熊本県甲佐町

★数量限定★熊本を代表するブランド新米15kg (森のくまさん5kg×3袋) 決済確定月の翌月10日前後発送予定 10,000円



熊本県甲佐町

赤身馬刺し750g 10,000円



熊本県甲佐町

★令和4年度★先行予約!熊本県産シャインマスカット1.2~1.5kg (2房) 10,000円



熊本県甲佐町

【R4年1月以降お届け月指定可能】【令和3年度産新米・無洗米】熊本県産 14kg 甲佐米 (7.0kg×2袋) 10,000円

交通弱者対策の具体化を

企画課長 調査を実施し検討を重ねている



佐野 安春 議員

問 交通ネットワーク対策について、目標を明確にして町民に示す必要がある。
交通弱者に対する対策については、これまでの町議会において幾度となく取り上げられてきている。井芹議員「高齢者移動手段について、タクシー券の発行は」森田議員「高齢者の交通輸送体制を考えると」荒田議員「交通弱者への対応は」佐野議員「高齢者移動手段確保の具体化を」など議会一般質問において最近の7年間で7回質問が行われている。

町の答弁は「検討中、現在分析中、支援策を調査中、考えていく、」などとなっている。
町民の皆さんは、ずっと検討中となつていて交通弱者に対する具体策がいつできるのかはつきりしてほしいと願っている。具体策への見通しはないのか。

古閑企画課長

地域公共交通に関して、平成31年に基礎調査を実施した。地区ごとの移動の実態、特性、ニーズについて分析を行い、課題を検討した。路線バス、町営バスのバス停から300m圏内の人口は57%、500m圏内は84%となっている。町営バスは、一部地域で停留所以外でも乗降できるように工夫して利便性が高まったと認識している。
今年度から、交通弱者、買い物弱者対策として、移動販売車事業を実施している。
町営バスは、車体の小型化、運行体制や事

前予約制導入など実証実験もできないか検討を重ねている。

指定避難所・宮内地区社会教育センターの改善を

問 指定避難所の宮内地区社会教育センターは、宮内地区唯一の避難場所となつているが、緊急の場合に施設に入るのに大変な不便さを感じる。
県道から施設に進入する道路は、入口の道幅が約2.2mと大変狭くなつている。道路途中にある排水路は金属カバーが規格にあつていないものが設置されていて、非常に危なく水路の水は斜面に垂れ流し状態で、このままでは崩れる可能性がある。打出方面からは入り難くなつている。また、施設グラウンドには照明がない。改善が必要であると思うが。

後藤社会教育課長
道路の傷み、排水路

のカバーについては、現地を確認したところ不具合が見られたので対応していきたい。
また、県道からの入口、特に打出方面からの進入路については、道幅も狭く、入りづらくなつている。県道については、町及び県道三本松甲佐線道路整備促進期成会から県に拡幅の要望が出されているので、県道の改良工事と合わせ一体と考える。照明については、現在整備を行うよう地元と協議を行っている。



宮内地区社会教育センター入口付近

「地域改善対策進捗学援助制度」を基に支援の対象を拡げては

問 県内の生徒・学生への支援の状況を調べたら、45市町村の中で28自治体が奨学金制度を創設している。6割以上の自治体が奨学金制度を創設し、経済的な理由で修学が困難な方に援助をしている。町では「地域改善対策進学援助制度」があるが、それを基にした支援策はできないか。

奥名町長

部落差別解消推進法は、部落差別を解消するための教育及び啓発を行うよう国と地方公共団体の責務を明確にされた。そうした背景としての制度であり、低所得者に対する全体的な支援という考え方には相違がある。



こちらから全質問を視聴いただけます。

一般質問



井 芹 しま子 議員

就学援助制度について 内容の周知もっと丁寧に

学校教育課長 わかりやすく説明していると考える

問 制度の活用は増えているが、令和3年度の甲佐町の就学援助率は12.8%となっている。しかし、文科省の調査によると、令和元年度の熊本県平均は15.07%、最も高い高知県は25.75%である。この格差についての分析をなされたことはあるのか。

吉岡学校教育課長 分析は行っていない。

問 就学援助率が高い高知市の案内を見ると「就学援助金とは」という説明が、多くの自治体では「経済的理由で

就学困難な保護者に対して」という文言だが、高知市は「この制度はお子さんが学校生活を送る中で経済的理由で困ることのないように学用品、学校給食費などの援助をおこなうもの」と説明し、援助の内容、援助額、援助を受けられる収入の目安もきちんと載せるなど、非常に丁寧な案内となっている。町においても案内の内容についてホームページ等も含めもっとわかりやすく丁寧にすべきでは。

吉岡学校教育課長

算定方法など誤った判断がないよう、小学校入学前に実施される就学時健診時に出向き、チラシの配布と制度の内容、申請方法など、事細かに詳しく説明している。

燃油高騰対策について

問 原油価格の高騰は燃料費の負担増にとどまらず、あらゆる製品

の値上げにつながり、住民の暮らしに大きな影響を与えている。本格的な冬を迎え、低所得者、生活保護世帯、ひとり親世帯などへの町独自の支援が必要ではないか。

岡本福祉課長

北海道や東北地方では現金、給油券の支給を実施している市町村もあるが、本町での単独事業は検討していない。

問 燃費高騰では多くの事業者が困難に直面している、町内の中小業者への支援も検討を求めたいが、その中で農家への支援について尋ねる。

井上農政課長

農家については、原油の高騰対策として国による支援があるが、現在、町独自の検討はしていない。その対策については、国が補正予算措置する公算が高く、その動向によって、

必要な場合はその制度を支援していく考えである。

令和4年度の財政の見通しは

問 令和4年度の見通しは中期財政計画通り推移しているのか。

北野総務課長

中期財政計画の見通しについては楽観的じゃないような形で見通しを組んでおり、計画よりも良い結果につながるよう毎年度取り組んでいる。

問 常々、町民の方が暮らしやすい、子育てしやすい町づくりを訴えて提案をしているが、ソフト面での予算拡充をもっとすべきと考える。とりわけ、少子化問題は国としても自治体としても重要な課題であり、日々の暮らしの応援につながるような予算措置を求める。

奥名町長

ハード事業よりもソフト事業という質問だが、実質的な一般財源で比較すると、普通建設事業費は、扶助費に対し同額、あるいはそれ以下である。

安定的な財政運営を考えながら、町の発展のため、長期的な視点の下、事業を行わなければならぬ。

今後、過疎債が充たできない状況になると、町独自財源をつくる必要がある。

そのため企業誘致などを進めるには、道路の整備、排水の整備が必要であり、普通建設事業にも取り組まなければならない。



こちらから全質問を視聴いただけます。

町の特産品としての サンショウ栽培の推進は

町長 農業の活性化に向け光明を見いだす



鳴瀬 美善 議員

ブランドとしてサンショウ栽培の推進は。

井上農政課長

サンショウ栽培は、中山間地域の農業収入の安定確保につながる可能性や、近年増えつつある耕作放棄地解消にも期待している。この流れが本格化した場合には、積極的に支援していきたい。

問 中山間地域における農業政策の現状は。

井上農政課長

事業としては、中山間地域等直接支払制度と中山間地域だけが対象ではないが、多面的機能支払交付金事業、また、ハード事業として、中山間地域総合整備事業を御船町、益城町と広域連携により進めている。

問 昨年11月に大手医薬品メーカー（ツムラ）による、サンショウ栽培に関する説明会があったが、町の特産品

問 本町農業の置かれた状況と地域特性に視点を置いた政策は。

奥名町長

本町の農業は、土地利用型を中心としながら、花や野菜、果樹、畜産など幅広い経営形態となっている。しかしながら、高齢化や農家戸数の減少、耕作可能な農地の遊休化も懸念されるなか、平坦地域においては、農事組合法人の設立や農地集積を進め、省力化のための農機具導入への支援を、また、中山間地域においては、県営中山間地域総合整備事業やサンショウ栽培についても有効な農業振興の一つの策として、光明を見いだしながら、期待感も持っている。

問 農事組合法人の経営状況と現状における課題や振興策は。

井上農政課長

本年度の米の買取価格は、品種により異なるが、60キロ当たり1千円から2千円下がっている。いくつかの法人では、米粉用米やニラなど、新たな作物を導入されているところもあり、法人の中でも将来を見据えた経営ビジョンや戦略を立てられ、そのアシストとして行政の力が必要となった場合は、町も全力を挙げて支援していきたい。

問 甲佐高校への入学者数の減少に対する支援策

甲佐高校への支援と地域との繋がりによる学校教育の充実や町の振興、防災について

として、県立高森高校の取組みを例とした、特色ある高校への取組みは。

荒田地域振興課長

令和3年度から甲佐高校がスーパーグローバルハイスクールとして県の指定を受けられた。町も、スポーツ団体をお持ちの町内企業もあることから、高校とスポーツ団体との連携による魅力づくりに取り組んでいく協議を行っている。

問 地域との連携、協働による目指すべき学校教育の充実と町の振興や防災は。

佐々木くらし安全推進室長

甲佐高校は、県の施設ではあるが、熊本地震の際には一時的に住民の避難場所として活用した経緯がある。大規模災害が発生した時には、指定避難所及び指定緊急避難場所として一時的に利用できるよう検討を進めている。



若草保育園との防災訓練の様子



こちらから全質問を視聴いただけます。

蔵田教育長

甲佐高校とは、小中学校においても古くから非常に強いつながりがある。町は、現在取り組んでいる公営塾「あゆみ学舎」や、県教委の事業との連携により、在学する生徒たちの夢の実現と進路保証、高校教育の魅力化を支援していきたい。

一般質問



議員 二良 斐 甲

美里町との包括連携協定について

企画課長 2町が相互に連携し課題解決と活性化を目的とする

問 生活環境の整備として、美里町への上水道の給水計画の協議が進められているが、事業計画の内容と進捗状況は。

橋本環境衛生課長

美里町においては、旧砥用町から佐俣地区までを美里町簡易水道事業の給水区域に設定されているが、この区域を旧中央北地区まで拡張する計画がある。計画策定にあたり小筵地区に水源を開発されたが、供給量が不足。本町上水道の豊内地区

にある第一配水池の水を中甲橋経由で美里町に送るといふものである。詳細な協議はこれからとなる。

問 本町上水道施設の余裕水量と美里町が必要とする最大供給量は。

橋本環境衛生課長

本町上水道は、第一、第三、第四の3つの水源から取水し、合計の供給能力は一日当たり約5000m³。供給量の実績が3400m³なので、1600m³が余裕水量となる。美里町の必要量は報告書によると一日最大580m³と算定されており、美里町へ供給しても十分余裕がある。

問 美里町執行部においては、本町から給水がなされれば、旧中央北地区にマンションやアパートが多く建設されるという認識であるが、本町給水区域への水圧の低下や水道料金

への影響は。

橋本環境衛生課長

報告書の中に「水理計算書」といふ本町の給水区域が影響を受けないかどうかの調査結果が添付されており、本町は影響を受けないという結果が出ている。水道料金については、余裕がある施設を使って料金収入を得ることになり、むしろ将来の料金値上げを抑制する効果があるものと考え



第一水源

問 特に甲佐校区に関しては大規模水害時に美里町へ避難せねばならない事態が想定されるが、そういった場合の避難所の相互利用の

受け入れ体制や、今後の防火訓練の共同実施の内容は。

佐々木くらし安全推進室長

総合防災マップでは、甲佐校区は最大で5mの浸水が予想されている。そうなった場合、命を守るためには安全な場所へ広域避難を想定しなければならぬため、今回防災対策の強化として「避難所の相互利用」を盛り込んだものである。

具体的には美里町の指定避難所や避難場所となっている駐車場などを一時的に利用させて頂くことで協議を進めている。

また、防災訓練の共同実施については、例えば両町の消防団を含めた水防訓練や防災講演、警察自衛隊をはじめ企業や防災関係団体を巻き込んだ総合防災訓練等の実施を想定している。

問 観光・イベントの

連携による魅力向上の具体策として甲佐町で何か検討されているか。

荒田地域振興課長

観光・イベントの広域振興については、まだ美里町と協議がなされていない。課内での協議検討内容として、アウトドア施設での連携はもちろん、イベント等の連携で両町合同の観光や移住のパンプレット作成、PR動画の作成も検討している。今後の美里町との協議で新たな連携の形が見えてくるのではないかと考える。



こちらから全質問を視聴いただけます。

町民の声

私が、散歩しながら考えていること

上豊内 佐野 光宣 みつのり

私は、健康のために朝夕に愛犬と散歩するのが日課となっています。散歩コースは幾通りもあり、その日の気分に合わせて決めています。我が家の近くには、風光明媚な所があり、観光名所もあります。「やな場」があり、「緑川製糸場跡」、国指定の史跡となった「陣の内城」更には、我家のすぐ近くには甲佐城（松尾城）があります。

散歩していると、いろんなものが目に入ります。澄み切った青い空の下、清々しい気持ちで歩いていますと、道の端や川の中に、空き缶、たばこの吸い殻、ペットボトル、ビニール袋等が落ちています。そういうのを目にするれば、いやな気分になります。川の中の物は回収しなければ、いずれ海に流れて行き、微細なプラスチックごみとなり海を汚すこととなります。

散歩のときに、ごみや空き缶など落ちていれば拾ったりしますが、一人の力は限られています。みんなで力を合わせれば、きれいにできるのではないかと思えます。要はごみ等を捨てないように意識していくことです。各家庭において、掃除整理整頓を家族みんなで実行し、日頃からルールとマナーを守り、家の中と同様に自然を汚さないように一人ひとりが気を付けることだと思えます。

私たち一人ひとりが環境問題を考え、環境美化に努めれば明るい未来につながります。

町民の皆様の議会傍聴をお待ちしています。
気軽にお越しください。

11月5日、本町議会棟研修室において、熊本県町村議会議長会主催の町村議会広報研修会に、リモートで参加した。

研修会では、熊本大学客員教授の越地真一郎氏が講師として招かれ、「そろそろ化けませんか!! 創意、熱意の取り組みに学ぶ」というテーマに基づき研修が行われた。

私たち広報委員会でも、日頃より町民の皆様にも、議会運営を分かりやすく伝えるために、見やすい、読みやすい広報誌づくりに努めている。今後、さらなる進化を意欲しながら「化けて」いきたい。



リモートでの研修風景

町民の皆様の議会傍聴をお待ちしています。
気軽にお越しください。

※令和4年第1回（3月）定例会は、3月11日開会の予定です。

編集後記

近年新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、私たちが取り巻く環境は大きく変化した。感染力が明らかに強いオミクロン株、ワクチン接種済などにより重症化しにくいといわれている中、3回目の早期ワクチン接種が望まれる。

密を避け、手洗い、うがい、マスク着用など感染予防対策を徹底し災害のない平穏な年であるよう心から願う。

（森田精子）

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 甲斐 高士 |
| 副委員長 | 宮本 修治 |
| 委員 | 佐野 安春 |
| 委員 | 森田 精子 |
| 委員 | 鳴瀬 美善 |
| 委員 | 田中 孝義 |
| 委員 | 甲斐 良二 |



甲佐町

議会だより

第180号

2022年2月15日発行

この議会だより「清流」は再生紙を使用しています。